

国語表現	報告課題第一回			
	解説			
		年		
			組	
				氏名

推敲とは

文章を書く際に、その字句や表現を練り直し、書き改めることを推敲という。

唐の詩人賈島が「僧は推す月下の門」という句の、「推す」を「敲」に改めたほうがよいかどうか悩んだという故事に由来する。

よい文とは

- ① 一文の長さはなるべく短く一文は五十〜六十字をめやすにし、それ以上長くないよう心がけよう。
- ② 一つの文には一つの事柄「……が、……が、」や「……して、……して、」など、むやみに言葉をつなぐとわかりにくくなる。二つ以上の事柄をつなげる場合は、時間の前後、原因と結果、理由と結論、並列など、相互を結ぶ条件を明らかにしよう。
- ③ 係り受けの正しい文を書く  
主語と述語の関係がねじれている文は、文法的に正しいとはいえない。

根拠の重要性

小論文などの論理的な文章を書く時に、根拠は不可欠な要素である。

なぜなら、「論」に説得力を与えるのは主張そのものよりも根拠であるからだ。

ただけその根拠を示すことができるかが「論」の力を決定するといってもいい。

また、根拠を述べる際には、ただ漠然とそれらしいことを書くのではなく、形のうえからはつきりとわかるように、「なぜなら……」などの接続詞を使って具体的に書くようにしよう。

文章構成とは

・構成表のそれぞれの項目に、中心となるセンテンスを書き込んでみよう。

・次に、それぞれのセンテンスをつなぐ接続表現を有効に使おう。

(例)

序論——問題提起

では、(問題の焦点化)

本論——論の展開

なぜなら(原因・理由)

例えば(例示)

つまり(整理)

確かに(予想される反論)

しかし(反証)

結論——問題提起に対する結論

したがって(整理)

これらを踏まえて報告課題に取り組んでいきましょう。